

都市計画マスタープラン策定委員会（第3回）会議要旨

日 時：令和3年11月8日（月）14：00～14：45

場 所：役場第2会議室

出席者：竹田委員長、古俣副委員長、下夕村副委員長、中野委員、鴻野委員、千葉委員、
牧野委員、倉地委員、小林委員

事務局：富川課長、伊藤参事、温井主幹、熊谷主幹、奥田主任、市原技師

1 次期都市計画マスタープラン（全体構想）について

（1）都市づくりの理念と目標

- 事務局から説明
- 質疑・意見

【下夕村副委員長】

都市づくりの理念を“戦略的な縮充による持続可能な都市づくり”として設定しているが、「縮充」という言葉は一般的な用語ではないため、町民に理解され難いのではないかと？

→ 先進自治体で使われている用語であり、まちを縮めながらも町民生活を充実させていきたいという想いを込めた言葉である。一般的ではないが、イメージしやすい用語であると事務局では考えている。

【鴻野委員】

“3 都市づくりの基本目標”の語尾が全て目指すとなっているが、能動的に町がやるという意味か、それとも民間への期待も込めた意味合いもあるのか？

→ ここでは都市づくりの方針を示しているものであり、町・民間含めての幅広い意味で考えている。

（2）将来の都市構造

- 事務局から説明
- 質疑・意見

【鴻野委員】

“2 将来都市構造の設定”について、今回、改めて将来都市構造を示したということか？

→ 白老駅周辺を中心拠点に、それ以外のJR駅周辺を地域拠点に位置付け、居住や都市機能の誘導を進めていきたいというイメージを図示したものである。

（3）都市づくりの基本方針

- 事務局から説明
- 質疑・意見

【千葉委員】

“（2）都市的土地利用の促進”の②商業系の「道の駅」の整備について検討するとあるが、目指すとどう違うのか？

→ 道の駅については庁舎内での議論が整っていないため、検討という言葉を使ったが、今後方向性が示された段階で、目指すという言葉を用いたい。

【下々村副委員長】

「道の駅」は都市計画施設ではないので、都市マスの中に「道の駅」という言葉は違和感があると思うがいかがか？

→ 取り扱いについて再考する。

【中野委員】

“1-4 土地利用区分別の方針”の農業系エリアの考え方について、農業の促進において野菜生産農家を増やしていく考えも必要だと考えるがいかがか？

→ 都市マスの中では農業エリアの設定を行うものであり、施策に触れるものではないため、このような意見があったことは農業担当に伝えさせていただく。

【中野委員】

“（2）緑と水の保全・活用”の中で、ヨコスト湿原保全・活用策等について記載されているが、湿地・湿原は3つの観点（水を浄化する機能、水の温度調整機能による地球温暖化対策、浄化水は海へ流れるため魚の貴重な栄養源となる）からとても重要である。自然環境調査についても触れられているが、ぜひ来年度、事業化に向けて検討いただきたい。

→ 自然環境調査は予算が絡むため、現時点で来年度実施すると確約はできないが、その重要性は十分に認識している。今後、内部で検討していきたい。

【下々村副委員長】

“（4）環境負荷の低減”の中で、公用車のことについて触れているが、都市マスの中で触れるものではないと感じるがいかがか？

→ 意見を踏まえ再考する。

【下々村副委員長】

“5 都市防災の方針”について現庁舎は浸水エリアにあり、今後、庁舎の建替えが検討されているのであれば、そこも踏まえた記述も必要である。防災基地が役場内にあるのであれば、浸水対策の拡充等について謳ってもいいのではないか？

→ 庁舎の移転改築等については内部での議論が煮詰まっていない状況にある。

今後、検討が必要な津波対策等があれば加筆修正を考えたい。

2 その他

- 今後の策定スケジュールについて事務局より説明 質疑なし